

編集後記

年の瀬にあたり新年号の編集後記を書いているとどのような季節感覚で書いてよいものやら戸惑っております。2015年は本雑誌にとって記念すべき電子化がなされ、Multimediaの使用により、多くの情報が会員に届けられるようになった記念すべき年でした。デジタルがアナログの紙の雑誌に今後戻ることはないでしょう。紙の雑誌を好みデジタル化を嘆く会員もいらっしゃるのではないかと思います。人類が減びさえしなければ何十年前のデータであってもたちどころに参照できるシステムを手に入れたことは我々の子孫への贈り物と言えるのではないのでしょうか。まず first-step は大成功といったところでしょう。次に控える英文誌の刊行に向けても編集長を支えていきたいと考えております。私はといえば成人先天性心疾患学会に向けての準備で忙殺されておりますが、この雑誌が発行される頃にはすでに学会も終わり抜け殻のように思っています。成人先天性心疾患の分野はますます数が増えていき他職種を巻き込んでいくわけですが、成人先天性心疾患診療の中心が小児循環器医であることはおそらく今後も変わらないと思われ、当雑誌との関わりもますます深くなると信じています。というわけで本年は小児循環器学会雑誌の second-step が展開する年であると信じてこの編集後記を終えたいと思います。

(市川 肇)